

2018年度

明治大学専門職大学院 会計専門職研究科 入学試験問題

【一般入学試験・I期入試】

## 管理会計論

### 受験上の注意事項

- 1 試験監督者の指示がある前に、この問題冊子を開くことは厳禁します。
- 2 試験開始の合図により、解答を始めてください。
- 3 問題は4頁まであります。印刷不鮮明等に気付いた場合は、静かに挙手にて、試験監督者に知らせてください。
- 4 問題に関する質問には一切応じません。
- 5 試験時間は60分です。試験開始から試験終了までの間、試験教室からの途中退出はできません。
- 6 試験の際に配付したものは、答案用紙を除き、試験終了後、持ち帰ってください。
- 7 次のもの以外は机上に置かないでください。

受験票・筆記具(鉛筆可)・時計(計時機能のみのものに限る)・眼鏡・計算機能のみの電卓

なお、受験票は、氏名・受験番号が記載されている面を表にして、受験番号ラベルの下に並べて置いてください。

- 8 答案の下書き等には、問題用紙の余白部分を利用してください。それ以外の用紙等の使用は認められません。
- 9 問題検討のためのラインマーカー・色鉛筆等の使用は、問題用紙に限り許可します。
- 10 試験中に身体の具合が悪くなったときには、試験監督者に申し出てください。ただし、診療所での受験や試験時間の延長は一切認められません。
- 11 試験教室内では、時計・携帯電話・スマートフォン等のアラーム設定を解除してください。携帯電話・スマートフォン等は電源を切り、カバン等にしまってください。時計としての使用も認めません。試験中にカバン等の中で携帯電話・スマートフォン等が鳴動した場合は、試験監督者が本人の了解を得ずに試験教室の外に持ち出すことがあります。試験中に携帯電話・スマートフォン等を身につけていたり、鳴動するなど、不正行為が疑われる場合は、答案を無効にする場合があります。
- 12 試験時間中に日常的な騒音等(試験監督者の巡回による足音・監督業務上必要な打合わせ、航空機・自動車・風雨・空調の音、他の受験生の咳・くしゃみ・鼻をすする音、携帯電話・スマートフォン等の鳴動など)が発生した場合でも救済措置はとりません。監督者が試験中断の指示をしない限り、解答を続けてください。
- 13 試験教室内では、耳栓の使用は認められません。
- 14 試験時間中の喫煙や飲食は厳禁します(全館禁煙です)。
- 15 試験終了の合図とともに、直ちに筆記具を置き、試験監督者の指示を待ってください。
- 16 不正な手段によって試験を受け、または受けようとした者に対しては、受験を中止させます。また不正等が、後日判明した場合には、合格の決定を取り消すことがあります。

## 問題 1

次の一連の取引について仕訳しなさい。

- ① 当月、素材 500kg（購入単価@3,000 円/kg）、工場消耗品 80,000 円を掛けで購入した。なお、購入に際しては、材料副費として 126,400 円を予定配賦により取得原価へ加算している（「材料副費」勘定から振り替えている）。
- ② 当月の材料副費の実際発生額は 160,000 円であったので、①の材料副費予定配賦額との差額を「材料副費差異」勘定に振り替える。
- ③ 当月の労務費の実際消費額を計上する。なお、直接工の作業時間報告書によると、勤務時間のうち、直接作業時間は 906 時間、間接作業時間は 20 時間、手待時間は 10 時間、定時休憩時間は 15 時間であった。当工場で適用される直接工の予定賃率は 1 時間あたり 2,400 円である。
- ④ 直接作業時間を配賦基準として製造間接費を各製造指図書に予定配賦する。当工場の年間製造間接費予算は、81,216,000 円であり、年間の予定総直接作業時間（基準操業度）は 11,280 時間である。
- ⑤ 当月の製造間接費の実際発生額は 6,656,000 円であったので、④の製造間接費配賦額との差額を分析し、差異を「予算差異」と「操業度差異」勘定へ振り替える。

## 問題2

明治製作所株式会社の駿河台工場は、受託生産における製品の最終工程を担当している。当該工程の始点で部品Xが投入され、さらに工程の途中で追加材料Yを追加投入して、製品を製造している。＜資料＞に基づいて、次の問いに答えなさい。

＜資料＞

生産データ：

月初仕掛品	1,000個	(50%)	
当月着手量	<u>4,000個</u>		
合計	5,000個		
月末仕掛品	<u>2,000個</u>	(50%)	
完成品	<u>3,000個</u>		( ) 内は加工進捗度である。

原価データ：

月初仕掛品原価	原料費	988,800円	加工費	532,800円
当月製造原価	部品X	1,440,000円	追加材料Y	288,000円
	加工費	1,680,000円		

- ① 追加材料Yを工程の40%のところでは完成品に含まれる全量を投入している場合、先入先出法により月末仕掛品原価を計算しなさい。
- ② 追加材料Yを工程の40%のところでは完成品に含まれる全量を投入している場合、先入先出法により完成品総合原価を計算しなさい。
- ③ 追加材料Yを工程を通じて平均的に投入している場合、先入先出法により月末仕掛品原価を計算しなさい。
- ④ 追加材料Yを工程を通じて平均的に投入している場合、先入先出法により完成品総合原価を計算しなさい。

### 問題3

＜資料＞に基づいて、①限界利益率、②損益分岐点売上高、③安全余裕率、④売上高営業利益率を計算しなさい。なお、計算過程において端数が生じる場合は、小数点以下第2位を四捨五入すること。

＜資料＞

		損益計算書 (単位：千円)	
売	上	高	10,260
変	動	費	<u>6,480</u>
限	界	利 益	3,780
固	定	費	
	減 価 償 却 費		1,060
	その他の固定費		<u>1,720</u>
	営 業 利 益		<u>1,000</u>

#### 問題4

黒字企業のX社は現在の機械を新機械Mに切り替えることを検討している。新機械Mを導入すれば、5年間にわたり毎年、売上増加に伴い営業キャッシュ・フローが170,000千円増加すると見込まれる。＜資料＞に基づいて、①新機械Mを購入し、現在の機械を売却することによって発生する正味キャッシュ・アウトフロー、②5年目までの毎年の増分キャッシュ・フロー（年額）を計算しなさい。

＜資料＞

	現在の機械	新機械M
現在の正味簿価	125,000千円	
取得予定価額		600,000千円
現在の売却額	50,000千円	
減価償却費（年間）	25,000千円	120,000千円

- (1) 減価償却は定額法で行っている。また法人税の実効税率は40%である。
- (2) 毎年のキャッシュ・フローは、期末にまとまって発生する。
- (3) 機械の購入や売却は現金で行う。売却時の損失は売却時に全額処理する。
- (4) キャッシュ・インフローは税引後の額で計算する。

#### 問題5

次の用語について説明しなさい。

- ① マネジド・キャパシティ・コスト
- ② 正常操業圏
- ③ 固定長期適合率